

令和3年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日： 11月26日(金)

会場： 河内コミュニティセンター

1. 地域の防災

項目	参加者の発言	市の発言
浚渫工事について	西城川の堆積土砂を撤去していただいたことから、平成30年豪雨では、越水せずに助かった。平成30年豪雨以上の水が出ると、おそらく越水したり内水が溜まると思う。宮ノ峡の三次町から入ってくるカーブの部分は、土砂を撤去していただいていない。県に強く要望をしてほしい。	西城川の堆積土砂の撤去については、地域の皆さんに見える形で安心材料になっている。西城川・馬洗川・江の川などの堆積土砂撤去は積極的にしていただいている。行政として、できる限りの対応をするため、県や国(国土交通省)に防災・減災の十分な予算をお願いしている。先日も全国市長会として、河川の整備等について、国に要望要請活動を行ったところである。国も、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策の下、ハードとソフトを合わせた事前防災を実施するため、来年度の予算確保についても前向きに捉えていただいている。堆積土砂の撤去についても、国や県において計画的に実施していただくよう連携する。
地域避難所の改修について	避難施設の整備について、基幹避難所や補助避難所は公共施設である。地域避難所である東河内地区の多目的集会所は、市の補助を活用して屋根の修繕をしたが、トイレや水道の修理には、市から補助が出ないと聞いている。地域避難場所となっているので、トイレや水道に助成事業をしてほしい。河内小学校のトイレの洋式化も願う。	水道の部分は難しいと思うが、地域集会所の修繕については、上限100万円で1/2以内の補助制度(三次市地域集会所施設整備等事業補助金)があり活用してほしい。詳しくは、ご相談いただきたい。
自主防災活動の活動交付金	自主防災に関する活動交付金は今年で切れるので、来年度も継続してほしい。	自主防災活動交付金については、平成31年～令和3年度までの交付となっている。交付金で、地域避難所の物資等の整備をしていただいた。交付金で整備していただいた、地域避難所の物資のローリング経費を補助できるように補助金要綱を改正する予定。なお、基幹避難所と補助避難所の物資の備蓄については市で行う。
災害時の情報について	<ul style="list-style-type: none"> ・穴笠地区の住民は、穴笠会館へ避難しているが、テレビもWi-Fiもない。Wi-Fiがあると避難時に情報が取りやすくなると思う。情報に関する孤立はどう考えているのか。 ・民間通信事業者の通信環境が途絶えないような取組は災害発生後からであり、できれば発生前に情報が欲しい。 ・災害後は、スマートフォンがつかない状況が生じる。スマートフォン等に頼らず、アマチュア無線を活用したらどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域集会所については、基本的に地域の皆さんで対応していただいている。地域によっては、自分たちで情報を得るための設備を設置されている。激甚災害の場合は、NTTなどの通信事業者に通信環境が途絶えないような取組を実施していただいている。災害時に情報過疎にならないように、市としても支援体制を今後構築していく。電波の入らない地域であれば対策が必要であるが、入るようなら個人でのスマートフォンや地域の皆さんでの対応をお願いしたい。 ・ケーブルテレビ、音声告知放送、エリアメール、LINEなどを活用して、多重的に情報発信している。また、三次市独自に防災アプリを導入している。ご指摘のとおり、一人でも多くの皆さんに情報が届くような環境整備を今後も取り組んでいく必要がある。 ・災害後については、民間事業者と協定を締結しており、高齢者など、基幹避難所では介護等が難しい方の避難については、市内のホテル旅館組合などと宿泊施設等に関して協定をしている。また、食料などの備蓄や、災害後の食料運搬の協定も締結している。 ・自分の家の危険性は何かを知っていただき、その家ごとの避難方法を考えてほしい。防災情報の伝達については、早めに呼びかけをさせていただく。
避難所について	<ul style="list-style-type: none"> ・小文地区については、河内小学校が避難所になっている。堤防が決壊すると浸水する可能性があり、避難所として不安を抱えている人もいる。また避難までの移動が危ないため、他の場所に避難所を検討していただけないか。 ・JAなどの施設については、昭和47年水害時には高い場所以外は浸かった。 	河内小学校以外で高い建物はないのではないかと。
穴笠橋	穴笠橋から交差点までの市道が低く大雨時すぐに市道が浸水して通行できなくなるので改良していただきたい。	穴笠橋は、現地を確認させていただき今後の対応を考えたい。

令和3年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日： 11月26日(金)

会場： 河内コミュニティセンター

2. 持続可能なまちづくりについてなど

項目	参加者の発言	市の発言
空き家について	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家がととも増えている。手入れがされておらず、雑草が生い茂り、木も生えている。今後どうなるのか不安である。 ・空き家を選んで、定住するには水(井戸)や土砂災害などの危険区域ではないかなどの条件もあると思う。また、周辺の方々(受け入れる側)のいろいろな意識改革も必要である。都会から移り住む場合、常会や地域の行事などがあり、環境に慣れるまでも時間もかかる。 ・空き家を個人の住家だけでなく社宅にしたり、テレワーク環境を整え事務所やオフィスにするなどの企業に活用してもらうことも考えられる。 	<p>空き家に関わる問題は難しいことが多い。基本的には、所有者が維持管理をするものであり、所有者が遠方などの場合、管理できていないことが多い。年々空き家の数も増えており、通学路や通路沿いに崩落する可能性がある「危険空き家」については、行政側から応急処置をする場合もある。所有者に、かかった費用を請求していくケースもある。空き家問題については、廃屋にせず活用していただけるような取組(空き家制度バンク)をしていく。</p>
婚活イベント	<p>独身の方が多いため、婚活の取組をしていただきたい。</p>	<p>婚活のイベントについては、市が直接に実施していない。三次市内には婚活事業をされている3~4程度の団体がある。市としては、その活動に対して補助を出している。婚活イベントにより結婚に至ったという成果もある。補助金を使いやすくするため、補助制度などの見直しをしている。</p>
インフルエンザワクチン	<p>インフルエンザの予防接種は、大人(65歳以上)は1,500円、子どもは3,000円である。予防接種をするには、大きな負担がある。インフルエンザワクチンへの助成と、インフルエンザになった時の病院の治療費の助成について、負担などのバランスはどうか。</p>	<p>確認させていただく。</p>
産直市・鳥獣対策	<ul style="list-style-type: none"> ・山家地区では、有志で土曜日に産直をしている。地域の人が寄って交流しており、サロンのような感じでいいと思う。 ・田畑の鳥獣被害が多い。この前は、イノシシのわなにクマが5月と8月に2回入っていた。市と県に来ていただき駆除していただいたがクマなども出てきている。 ・山を開拓するからクマやイノシシは出ており、山の中に食べるものがないからクマなどが出ると研修会で聞いた。山の中にクマやイノシシの食べるものを植えるなどの対策ができないかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年からのクマの目撃情報も急増している。ツキノワグマは国の指定保護獣であるが、人命のためにも対策について、広島市長会などを通じて、国や県に見直しを要望している。 ・鳥獣被害について、耕作意欲を減退させるような被害が出ている。広島県は農作物での被害額が全国でもトップクラスである。駆除はしているが、被害額を減少させることまではできていない。箱わなにイノシシやシカが入ったことをカメラで写し、スマホに届けるICTを活用した実証実験を行っている。今後も、地域の皆さんや猟友会の皆さん、農家の方々と一緒になり取組を行っていく。 ・バッファゾーン(人と野生生物とを隔てる緩衝地帯)をつくるなどの考えもあるが、抜本的ではない。駆除した鳥獣は、ジビエにして地域の資源にする取組もある。地域の先進的な取組事例も調査研究しながら打開策を考えていく。